



イベント名：サーキュラー・エコノミー・デイズ

概要

欧州サーキュラーエコノミー・ステークホルダー・プラットフォーム（ECESP）は、第2回「サーキュラーエコノミー・デイズ」を2025年の大阪・関西万博で開催します。

万博は、革新性、創造性、そして未来を見据えたソリューションを世界規模で体験できる絶好の機会です。

今年は、9月22日から24日までの3日間にわたり、日本・大阪で5つの国別パビリオンにて9つのイベントを実施します。本国際イベントシリーズは、欧州と日本の実務者、政策立案者、企業、イノベーターの間で対話と協力を促進することを目的としています。サーキュラーエコノミーにおける戦略を共に探り、優れた事例を共有し、国や分野を超えて循環型ソリューションを支えるパートナーシップを構築します。

ECESP代表団は、[調整グループ](#)のメンバー、欧州委員会の代表、欧州経済社会評議会（EESC）のメンバーで構成されます。

[詳細プログラム](#)については、こちらをご覧ください。

万博開催期間中に大阪にいらっしゃいますか？もしそうでしたら、ぜひ[お知らせください](#)。一緒に世界中でサーキュラーエコノミーの移行を推進しましょう！

開催日時（開催日・登録開始時間・開始時間・終了時間）

2025年9月22日～24日

場所

大阪・関西万博

参加費（入場料が無料の場合には、無料である旨を記載してください。）

無料

プログラム/スケジュール

下記の概要をご覧ください。

定員（参加者数）

各パビリオンによって異なります。

対象者（もしあれば）

サーキュラー・エコノミーに関心を持つコミュニティ、熱意をもって取り組んでいる人、および一般のすべての方々

使用言語

主に英語（一部セッションでは日本語通訳あり）

主催

ECESP、欧州委員会、欧州経済社会評議会（EESC）

共催（もしあれば）

EUパビリオン、ベルギーパビリオン、ノルディックパビリオン、オランダパビリオン、ポーランドパビリオン

応募方法

N/A

申し込み締め切り

N/A

問い合わせ先（氏名、電話番号、メールアドレス）

アリス・センガ - alice.senga@eesc.europa.eu

ダニエラ・ストイチェヴァ - Daniela.Stoycheva@ec.europa.eu

万博チケットの有無（イベントが万博会場で開催される場合）

あり（限定数）

イベントのウェブサイトはありますか？（URLがあれば）

<https://circulareconomy.europa.eu/platform/en/osaka-2025-circular-economy-days-programme>

参考資料（チラシ、同行企業のリストなど）

詳細プログラム

トピック/プログラム	時間 - パビリオン
2025年9月22日	
持続可能なテキスタイル テキスタイルの未来を共に考える- 循環性とイノベーションの潜在力を共に模索する テキスタイル産業は私たちの日常生活に不可欠であり、経済、文化、そしてアイデンティティに深く根付いています。しかし同時に、資源集約的な産業のひとつでもあり、大量の廃棄物、汚染、水資源への圧力、そして生態系の劣化に大きく寄与しています。 気候変動の激化と水不足が進むなか、水に強い繊維システムを構築することは喫緊の課題です。水を大量に消費する綿花栽培や河川を汚染する染色工程など、現在の産業モデルは持続可能ではありません。循環型アプローチや自然に基づく解決策を導入することで、水の利用を削減し、生態系を回復させることが可能です。 同時に、新たに拡大するバイオエコノミーは、この分野の脱炭素化や化石由来繊維への依存低減に大きな可能性をもたらしています。タンパク質由来の繊維や農業残渣を活用したセルロース繊維といったバイオベース素材の革新は、生分解性で環境負荷が小さく、循環型システムと両立できる有望な代替手段です。 本イベントでは、メーカー、政策立案者、デザイナー、イノベーター、そしてサステナビリティの推進者が一堂に会し、繊維産業の未来を切り拓く解決策を探ります。循環性、水資源への強靱性、バイオベースのイノベーションがどのようにして繊維産業を再構築し、再生可能で、公平で、未来に適応した産業をつくり上げられるのかを議論します。 モデレーター: Matteo Ward ブロック 1: より持続可能な未来を紡ぐ - Jessika Roswall (欧州委員会 環境担当委員)	10:30 - 12:00 (GMT + 9) - ポーランドパビリオン

- Maria Nikolopoulou (欧州経済社会評議会・サーキュラーエコノミー・ステークホルダープラットフォーム メンバー) - 東 憲児 (スパイバー株式会社 代表取締役副社長) - Dounia Wone (Vestiaire Collective インパクト最高責任者) ブロック2：繊維産業の環境コスト - Claire Downey (Rediscovery Centre) - Maria Vera Duran (EuRIC) - 稲垣 貢哉 (信州大学・サステナブル・テキスタイル専門家)	
NEBとグリーンシティ グリーンシティとサステナビリティと美を通じたより良い暮らし —新ヨーロッパ・バウハウス 都市はグリーン移行の最前線に立っています。環境政策が具体化し、市民に具体的な成果をもたらす生きた実験室です。本セッションでは、循環型経済の原則の採用から自然に基づくソリューションの導入、そして気候変動への都市空間の適応まで、真にグリーンな都市の実現に必要な要素を探ります。 新ヨーロッパ・バウハウス (NEB) を軸に、持続可能な建築、革新的な素材の利用、そして自然と調和した都市戦略といった刺激的な事例を紹介する議論が展開されます。また、ロズウォール環境担当委員の主要分野である水資源管理、循環型経済、異常気象へのレジリエンスといった分野にも焦点を当て、これらがよりグリーンで、より包摂的で、より美しい都市環境の実現にどのように貢献するかを紹介します。 欧州グリーンキャピタル受賞都市と日本の都市の先駆者による対話を交えながら、大陸を跨ぐ都市が、使い捨てプラスチックの削減や公共空間の変革といった喫緊の課題にどのように取り組んでいるか、そして変革を推進する上で地域主導の取り組みと各国の規制当局の役割について探ります。セッションでは、グリーン都市政策の具体的なメリット、生活の質の向上、資源の有効活用、地域社会との結びつきの強化、そしてより支援的なビジネス環境に焦点を当てます。 セッション後半では、持続可能性、美学、そして社会的包摂性を融合させたヨーロッパの運動である新ヨーロッパ・バウハウスを取り上げます。NEBはEU域外への参加拡大も目指しており、ヨーロッパと日本の建築家がロズウォール環境担当委員と共に、持続可能な建築がどのようにより環境に優しい都市を形成し、市民の日常生活を向上させるかについて議論します。 NEBの精神と実践的な持続可能性に基づき、この意見交換では、小規模プロジェクトがどのようにより広範な都市変革に貢献できるか、そして	13:30 - 15:00 (GMT + 9) - EU

ヨーロッパと日本は持続可能なデザインと建築のビジョンにおいてどこで収束できるかについても問いかけます。 ブロック1：国際協力によるレジリエントでグリーンな都市づくり グリーンシティモデレーター： Jean-Eric Paquet（駐日EU代表部大使） - Jessika Roswall（欧州委員会、環境担当委員） - Margot Roose（タリン市副市長） - 山中 竹春（横浜市長） - 横山 英幸（大阪市長） ブロック2： 持続可能な未来をデザインする — 新ヨーロッパ・バウハウスの実践 NEBモデレータ： Marcos Ros Sempere - Jessika Roswall（欧州委員会、環境担当委員） - 坂 茂（建築家） - Albert Edman（RISE - NEBプロジェクト）	
サーキュラーエコノミー外交 循環的で強靱かつ公正な経済のためのグローバルリーダーシップ 真に循環型、レジリエント、そして公正な経済は、各国の政策だけでは実現できません。世界的な協力とリーダーシップの共有が不可欠です。循環外交とは、循環型経済の原則を戦略的に活用し、国、コミュニティ、そしてセクター間の橋渡しをすることです。これは、包括的な対話、知識の共有、そして共通の目標に向けた共同行動を促進します。 ジェシカ・ロズウォール環境委員が述べたように、「今こそ自然をバランスシートに組み込む時です」。人間を自然の一部と認識することで、私たちの価値の定義が変わり、生態系の健全性、社会の幸福、そして長期的なレジリエンスが優先されるようになります。 EUと日本のようなパートナーシップは、政策の整合性と文化遺産がいかにこの転換を支えられるかを示しています。資源意識と自然循環の尊重という日本の伝統は、持続可能な生産と消費のための適切なモデルを提供しています。 しかし、循環性とは単に効率性の向上だけではありません。充足性、公平性、そしてシステム変革に関わるものです。地球の限界内で人類のニーズを満たし、過剰生産を削減し、どの地域やコミュニティも取り残されないことを意味します。 世界のリーダーシップは、この変革を可能にすることに注力する必要があります。解決策を輸出するのではなく、国境を越えてアイデアや価値	16:00 - 17:30 (GMT + 9) - EUパビリオン

観を結びつけることです。循環外交を通じて、循環型であるだけでなく、公平で、回復力があり、将来を見据えた経済の基盤を築くことができます。

モデレーター：Ladeja Godina Kosir

ブロック 1: リーダーズ・ダイアログ — グローバルな架け橋を築く

- Jessika Roswall (欧州委員会環境担当委員)
- Cillian Lohan (欧州経済社会評議会：EESC)
- Sheila Aggarwal-Khan (UNEP 産業・経済部門 ディレクター)

ブロック 2: これからの展望 — 循環型グローバル経済への行動の道筋

- Janez Potočnik (IRP・オンライン参加)
- 原田 禎夫 (同志社大学)
- Lakshitha Paranagamage (地球環境戦略研究機関 [IGES])
- Agata Meysner (Generation Climate Europe)

2025年9月23日

プラスチック

プラスチック・プラネット：よりクリーンな明日への革新的解決策

世界では、毎年4億トン以上のプラスチックが生産されています。そのほとんどは、包装、消費財、産業用途に使用されています。残念ながら、これらのプラスチックの多くは使い捨てであり、リサイクルされているのは10%未満です。残りは最終的に埋め立て、焼却、あるいは環境、特に海洋や水路を汚染しています。

本セミナーでは、プラスチックの使用量と廃棄物を削減し、消費者の関与と意識を高めるための革新的なソリューション（日本で使用されている焼却方法に代わるより良い方法）について触れます。リサイクルはプラスチック廃棄物の管理において重要ですが、他のソリューションも有望な結果を示しています。本セミナーでは、世界プラスチック協定（GPA）で定められた目標に沿って、プラスチックの発生を根本的に防ぐことに焦点を当て、バイオレメディエーションなど、世界的なプラスチック汚染問題に対する有望なソリューションを紹介します。

本イベントでは、2つの活発なパネルディスカッションが行われます。最初のパネルでは、使い捨てプラスチック、過剰包装、マイクロプラスチック、そしてプラスチックの過剰な生産の複雑さについて深く掘り下げます。EUと日本の専門家がこれらの問題を分析し、国際的な取り組みの進展について議論します。2つ目のパネルでは、既に市場で大きな

10:30 - 12:00 (GMT + 9)
- EUパビリオン

話題となっているプラスチック代替の最先端のソリューションを紹介します。このパネルでは、アジアとヨーロッパのビジネスリーダー、NGO、学者からの洞察を交えながら、変化を推進する革新的な精神に焦点を当てます。よりクリーンでプラスチックフリーの未来を目指して活動するソートリーダーやイノベーターと交流できるこの機会をお見逃しなく。 モデレーター： Maria Vera Duran ブロック 1: プラスチック問題 - Maria Nikolopoulou (EESC メンバー) - 桂川 孝裕 (亀岡市長) - Sheila Aggarwal-Khan (UNEP 産業・経済部門 ディレクター) ブロック2: プラスチック汚染を抑える革新的な取り組み - Ngoc-Bao PHAM (地球環境戦略研究機関[IGES]) - Monty Simus (The Ocean Cleanup グローバル渉外・政策・ブルーファイナンス担当ディレクター) - 大塚 桃奈 (上勝町 環境最高責任者)	
重要原材料CRM 素材に関する強靱性：安全で持続可能な未来のためのイノベーション 素材は欧州経済にとって不可欠であり、これらの素材への持続可能なアクセスを確保することは、ネットゼロ目標の達成に不可欠です。しかしながら、欧州は主に第三国からの輸入に大きく依存しています。経済のレジリエンスを強化するためには、この戦略的依存に伴うサプライチェーンリスクを軽減する必要があります。 ノルディック・サーキュラー・ホットスポットとの共同開催となる本セッションでは、循環型経済における戦略的かつ重要な素材に焦点を当て、都市鉱山、重要原材料のリサイクル、モビリティとインフラ、製品パスポート、持続可能な鉱業といったトピックを取り上げます。 持続可能な鉱物生産における欧州のリーダーと日本のリーダーの間で議論を促進することを目的としています。自動車業界とエレクトロニクス業界の代表者によるプレゼンテーションとパネルディスカッションが行われ、モビリティとインフラにおける重要原材料の重要性に焦点を当てます。 モデレーター： Cathrine Barth & Einar Kleppe Holthe ブロック 1: 重要な原材料 — 現状とその重要性	13:00 - 14:30 (GMT + 9) - 北欧パビリオン

- Nina Aagard (北欧閣僚理事会・北欧評議会 コミュニケーション責任者) - Cillian Lohan (欧州経済社会委員会 [EESC] メンバー、欧州サーキュラーエコノミー・ステークホルダー・プラットフォーム [ECESP]) ブロック2: ケーススタディ - Janez Potocnik (国際資源パネル 共同議長) - Freek van Eijk (Holland Circular Hotspot CEO) - Agata Meysner (Generation Climate Europe 創設者・代表)	
循環経済型ビジネスモデル サーキュラー・エコノミーの拡大: 中小企業が切り拓く持続可能な未来 循環型ビジネスモデルは、世界中の健全な経済にとって不可欠です。資源効率、経済のレジリエンス（回復力）、そして環境の持続可能性を高めます。これらのモデルは、中小企業にイノベーション、コスト削減、そして競争力向上の機会を提供します。 中小企業はイノベーション、雇用、そして成長を推進するため、この移行において極めて重要な役割を果たします。彼らの関与は、循環型経済へのより広範な移行に不可欠です。循環型の実践を導入することで、中小企業は持続可能でレジリエンス（回復力）があり、競争力のある経済を創出することができます。 本セミナーは、欧州と日本の中小企業を集め、循環型経済の原則を導入するための知見、ツール、そしてベストプラクティスを共有することを目的としています。循環型経済の重要性を強調し、革新的なビジネスモデルを紹介し、知識交換を促進することで、中小企業の持続可能な実践への移行を支援します。本イベントは、コラボレーションとネットワーキングの機会を促進し、持続可能性に取り組む企業コミュニティを育成します。 モデレーター: Freek van Eijk - Anders Ladefoged (欧州経済社会評議会 [EESC] メンバー、欧州サーキュラーエコノミー・ステークホルダー・プラットフォーム [ECESP]) - Rosa Strube (CSCP サステナブルライフスタイル部門長) - Matteo Ward (Inside Out Fashion CEO) - Hubert Bukowski (INNWO リサーチディレクター) - Dounia Wone (Vestiaire Collective インパクト最高責任者) - 林 志浩 (地球環境戦略研究機関[IGES]プログラムディレクター)	15:00 - 16:30 (GMT + 9) - ベルギーパビリオン

- Takahiro Iwaya (トヨタ自動車 持続可能性プロジェクトマネジャー) - Ngawang Gyeltshen 起業家 -	
市民の関与 私たちが始まる：日々の選択が循環型経済を築く EUと日本は共に、意欲的な循環型経済政策を策定してきました。EUは欧州グリーンディールと気候中立目標に沿った取り組みを進めていますが、日本は資源循環と環境への影響の最小化を重視しています。どちらのアプローチも市民参加を重視していますが、日本のアプローチは資源の尊重と長期的な利用という文化的背景に深く根ざしています。循環型経済を実現するには、持続可能な生産だけでなく、消費者行動の変化も不可欠です。繊維や電子機器などの分野では、ファストファッションや計画的陳腐化が廃棄物の増加につながっています。修理、再利用、責任ある廃棄を促進することが、循環型経済の実現に不可欠です。 このパネルディスカッションとインタラクティブセッションでは、電子機器、繊維、プラスチック、包装、家具、食品といった日常的な分野において、消費者がどのように循環型経済を推進できるかを探ります。行動上の障壁と促進要因（動機や習慣からインフラやインセンティブまで）を理解することは、効果的な政策とビジネスモデルを設計する鍵となります。このセッションでは、政府、企業、都市、市民社会が、より循環的な未来に向けて個人がどのように参加できるかに焦点を当てます。 モデレーター： Rosa Strube - Claire Downey (Rediscovery Centre CEO) - 東 靖弘 (大崎町長) - 大塚 桃奈 (上勝町 環境最高責任者) - 山辺 アリス (環境戦略研究所 政策研究員) - Maria Nikolopoulou (欧州経済社会評議会 [EESC] メンバー、ECES P) - Einar K. Holthe (Natural State AS 創設者兼CEO) - Dounia Wone (Vestiaire Collective インパクト最高責任者)	18:00 - 19:30 (GMT + 9) - オランダバビリオン
2025年9月24日	
経済的なインセンティブ ギアチェンジ：変化する世界に適応する循環型政策	10:30 - 12:00 (GMT +9) - ポーランドバビリオン

つい最近まで、持続可能な規制への熱意は、主に義務と阻害要因という形で、止めようのない勢いで高まっていたように見えました。しかしながら、近年、循環型への移行に関する規制措置の受容は、大西洋の両岸のみならず、その他の地域でも著しく低下しています。インフレの再燃、エネルギー安全保障の問題、収益性への懸念などにより、米国のインフレ抑制法や欧州グリーンディールといった野心的な政策は歓迎されなくなっています。これは特に、EUの農家に対する環境要件への抗議デモ、炭素取引制度によるエネルギーコストの上昇、そしてモビリティの電動化の鈍化といった問題に関係しています。世界中の政治家はロビイストや有権者からの圧力にさらされており、環境制約の緩和を模索しています。

モデレーター： Hubert Bukowski

ブロック 1: 義務ではなく説得 — 賢明な立法による社会的反発の回避

- Claire Downey (CEO, Rediscovery Centre)
- 馬奈木 俊介 (九州大学主幹教授・都市研究センター長, ユヌス&柚木ソーシャルビジネスセンター長)
- Einar K. Holthe (Natural State AS 創業者兼CEO)
- Matteo Ward (Inside Out Fashion CEO)

ブロック2: 規制と持続不可能な行動 — 課税と経済戦略の役割

- Anders Ladefoged (欧州経済社会評議会[EESC]メンバー、[ECESP])
- 古沢 広祐 (一般社団法人 環境・持続社会研究センター [JACSES] 代表理事)
- Prof. Bolesław Rok (レオン・コズミンスキー経営大学校企業ビジネス倫理学部教授)

バイオエコノミー

Nature in the Loop: 共につくるグリーン経済

各分野の専門家が集まり、これら二つの枠組み（バイオエコノミーとサーキュラーエコノミー）がどのように連携し、持続可能なイノベーションを推進し、廃棄物を削減し、資源効率を高められるかを探ります。実際の事例や活発な対話を通じて、生物資源を循環型システムに統合するための戦略、こうした移行を支える政策の役割、そして再生型経済を創り出す可能性について議論します。

バイオエコノミーと循環型経済の相乗効果は、持続可能な開発の強力な推進力となります。どちらの枠組みも資源効率と自然資産の持続可能な利用を重視していますが、その視点はそれぞれ異なります。

モデレーター： Agnieszka Sznyk

ブロック 1: バイオエコノミーとは何か — 循環性との関係

13:00 - 14:30 (GMT +9) -
ポーランドバビリオン

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">- 古沢 広祐（一般社団法人 環境・持続社会研究センター [JACSES] 代表理事）- Cillian Lohan（欧州経済社会委員会 [EESC] メンバー、ECESP）- Agata Meysner（Generation Climate Europe 会長・創設者）- 鈴木 寿明（蒲郡市長） <p>ブロック2：応用サーキュラー・バイオエコノミー</p> <ul style="list-style-type: none">- 西川明秀（株式会社BIOTECHWORKS-H2代表取締役CEO）- Ladeja Godina Košir（Circular Change CEO）- Cathrine Barth（Natural State 循環経済部門責任者）- 茄子川 仁（Hemicellulose株式会社 代表取締役社長） | |
|--|--|